

水道メータの計量範囲とその性能

計量範囲	性能				価格
	計量精度	感度	計量範囲	耐久性	
Q ₃ /Q ₁ (R 値)	計量範囲内のどの流量点においても正確に計量できるものがよい。	わずかな流量においても敏感に計量できるものがよい。	一定の器差範囲で計量できる流量の範囲が広いものがよい。	長期にわたり計量精度、感度などの性能が維持できるものがよい。	できる限り安価なものがよい。
R=80	◎ (従来メータより良い) 検定公差 5%の小流量域の範囲が従来より狭くなり、検定公差 2%の大流量域が従来より広がった。	新基準水道メータでは、検定範囲外となる始動から定格最小流量(Q ₁)までの特性が、製造業者によって異なる可能性がある。	○ 従来メータと同等	JIS B 8570-2 では促進耐久試験が規定されている。 なお、使用期間 8 年相当の通水量での加速通水試験を東京都と広島市で現在行っている。	検定が任意の 2 点から JIS で規定された 3 点に変更され、検定時間が増加するため、価格への影響が考えられる。 なお、R=100 は、R=80 に比べて検定流量点により小流量域となるため、所要時間が若干増加する。
R=100	◎ (R=80 より良い) 検定公差 5%の領域が R=80 に比べてより小流量になっている。		◎ (R=80 より良い) 小流量域の計量範囲が従来メータより広い。		
R=125	◎ (R=100 よりさらに良い) 検定公差 5%の領域が R=100 に比べてより小流量になっている。	R=125 で型式登録を受けた製品がなく、製造されていないため、不明。	◎ (R=100 よりさらに良い) 小流量域の計量範囲が従来メータより大幅に広い。	R=125 で型式登録を受けた製品がなく、製造されていないため、不明。	